

新型コロナウイルス感染拡大を受け、来年度の新たな採用を計画する県内企業が試行錯誤しながら選考活動を進めている。選考スケジュールの見直しに加え、説明会や選考にオンラインを導入する動きが加速。緊急事態宣言が全面解除され、対面での選考を再開する動きも出始めたが、前例のない環境下では各企業の採用活動の動きは手探り状態だ。

### 県内企業の来春採用

### 対面方式も再開動き

エネルギー事業のエネジン（浜市中央区）は白河、県内学生を中心に対面での選考も会社説明を再開する。4月上旬に首都圏に緊急事態宣言が発令された以降、動画配信やウェブ面談に移行していたが、6月につながらず最終選考は対面での実施を重視。インターネット（就活体験）などを発して早期に面接を終えていた学生以外は予定が出せない状況が続いている。

### ■安堵と不安

「例年は、来年度の新卒採用が一段落している時期。慎重を期しながら再開したが、ようやく先を進める」と話すのは採用担当で経営企画部の北井佳さん。安堵（あんご）の表情を見せる一方、例年6月から始動する再来年度の採用を見据えたインターネット開催には慎重だ。同社は「先行する不透明な状況から、22年春採用は例年以上に早期化が進むのでは」と見通し、7月までのインターネットのオンライン実施に準備を進めている。県をまたぐ移動の負担が依然求められている中、各社は事業継続に欠かせない感染リスク対策と異域学生へのアプローチのインターネットのオンライン開催に向けて準備を進めるエネジンの北井佳さん（右）は、浜市中央区

## オンライン活用 手探り選考



### ■多様な人材を

政府や経団連が就活生の不安緩和に向けて着目している柔軟対応を企業に呼び掛けていて、過半数の新卒採用がどの程度広がるかも注目されている。東海、中部地区エリアでスーパーを展開するマックスバリュ東海は、海外への留学生帰国や内定取り直しを受けた人材に配慮しながら9月入社採用選考に着手する。21年春採用と合わせてオンライン選考を活用し、多様な人材確保を目指す。

就活生を受け入れる大学側は、学生や職員ともに立ち入り制限されている中で支援の在り方を模索している。常葉大（静岡市駿河区）は、オンラインと予約制の対面指導で学生に寄り添う。「早期就職を始めた学生は順調に内定を得ているものの、多くが戸惑いながら活動している」とキャリアサポートセンターの宮川敏弘課長。経済活動停滞の長期化で「採用計画を白紙に戻した」などの企業情報も少しずつ入ってきている。こうした一層警戒も強まっている。

静岡大は4月中旬から相談業務をオンラインに移し、例年はセミナー形式のガイダンスを動画配信した。キャリア支援センターの手嶋由美教授は、「1100人規模でも状況打開に向けて動き始めるようにしたい」と話している。ウェブ面談の基本操作に関する講座も取り入れ、通信環境が整わない学生に学習機器の使用も認めている。

（総務部・北井佳）